

① 分科会分担分【補正予算議案】

予算決算委員会 総務分科会座長報告

令和7年6月 26 日 予算決算委員会後期全体会

○議案第 73 号 及び 議案第 75 号のうち、総務分科会の分担となりました部分 の経過報告

○議案第 73 号「令和7年度飯田市一般会計補正予算(第 1 号)案」のうち、当分科会分担分

○歳出 2款 総務費 1項 総務管理費 9目 企画費

大学とのネットワーク構築事業費に関し、

【質疑】本事業は国の委託金によるものだが、事業の具体的な目的は。

【答弁】具体的には、国は「進学を契機として東京圏に若者の転出超過が続いている中、大学生などの若者の力を生かした魅力的な地域づくりや未来の地域づくり人材の育成、その人材の環流の取り組みを加速化させ、地域の担い手の確保や将来的な地域おこし協力隊等への参画を推進していくこと」を掲げており、いわゆる移住定住・交流人口の創出を目的に、地方創生の施策として行うものである。

【質疑】事業の目的は飯田市で実施している学輪 IIDA の取り組みと似ていると思うが、学輪 IIDA では遠山郷に加え、中心市街地、千代地区などでフィールドスタディを開催しているが、その中で遠山郷を選んだ理由は。

【答弁】それぞれの地区で課題がある中で、特に遠山郷では保育園児

や小・中学校の児童生徒数の減少、耕作放棄地の増加、獣害被害など、将来に向けた課題が多くある。一方で、どんぐり隊や地域おこし協力隊など、大学と協働してくれる人材や団体が豊富にあり、実施地域として最適と判断したため。

【質疑】本事業の取り組みと、学輪 IIDA の取り組みは何が違うのか。

【答弁】学輪 IIDA のフィードスタディでは、大学の先生や学生が一定の期間、この地域を大学の研究材料にしたり、卒論等の材料として学び、まとめている。先生方は毎年来られて継続的に関わられているが、学生はそれぞれの年での活動が主であり、単発的な関わりとなっている面もある。

今回の委託金の取り組みは、明確に移住や関係人口を増やすために、地域と大学生の将来的な関わりをつくることを目的にしており、継続的に行うことで、地域の課題解決に繋げていく取り組みとなる。

【質疑】国からの委託金を有効に活用してほしいと考えるが、この委託金は単年度予算のため、令和8年度以降委託金がなくなった場合、事業はどうなるのか。

【答弁】まだ、国から来年度以降の委託金の方向性は示されていないが、市としては国からの委託金がなくなれば事業終了とは考えておらず、少なくとも3年程度は活動を継続していくことを、地元の協力者、大学の先生など、関係者へもお伝えしている。

【質疑】歳入の市債において、小学校大規模改修事業及び文化会館施設整備事業の財源に充当している「公共施設等適正管理推進事業債」は、事業期間が令和4年度から8年度まで、充当率が

90%、交付税措置が財政力に応じて 30%から 50%と認識している。当市の令和5年度財政力指数は 0.529 で、交付税措置率を算定すると 43.55%になると考えるが、令和6年度決算の財政力指数を鑑みて借り入れをするのか、前年度と同程度の交付税措置率を見込んでいるのか。

【答弁】令和6年度決算について調製をしているところであるが、現状、指摘の通りの率を見込んでいる。

【質疑】起債は時限措置を有するものがあるが、公共施設等適正管理推進事業債は、現在、令和8年度までとなっており、延長するといった情報はるか。

【答弁】総務省から、今後の活用の見込みの照会があり、県を通じて国に報告している。現在、国で検討をしている段階と捉えている。

○議案第 75 号

「令和7年度飯田市一般会計補正予算(第 2 号)案」のうち、
当分科会分担分 特に申し上げることなし。